



長門の話題 Topics

俵山多目的交流広場をリニューアル

世界に通用するアスリートを

俵山多目的交流広場のクラブハウスが完成し、8月6日(月)、竣工式が開催されました。竣工式では大西市長が「今後、この施設を活かし、世界に通用するアスリートを育てていくほか、国内外のチームのキャンプを誘致することで地域の活性化にも貢献したい」とあいさつ。工事経過の

説明や感謝状の贈呈の後、出席者全員で万歳三唱して竣工を祝いました。完成したクラブハウスは木造2階建て(一部RC造)で、ロッカールームや医務室、トイレのほか、キャンプ実施に必要なチームルーム、マルチメディアルームを備えています。



▲クラブハウスなどが再整備された俵山多目的交流広場



▲関係者ら約50人が出席して竣工式が行われた

海と日本プロジェクト「Sea級グルメスタジアムin山口」

高校生と小学生が商品を開発

8月19日(日)、「Sea級グルメスタジアムin山口」が大津緑洋高校で開かれ、大津緑洋高校の生徒と市内小学生ら約40人が参加しました。

これは日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として開催されたもので、小学生に地元の水産物の現状や課題、水産物の特色を伝え、海に関心を深めてもらい、次世代へ海を引き継ぐことを目的としています。

この日は、はじめに大津緑洋高校の生徒が先生役となつ



▲水産養殖の現場でエサやりを体験

て海の授業を行った後、市内の水産物や道の駅センザキツチンを見学。その後、市内企業がとらふぐや長州黒かしわなどを使って開発した「とらふぐのフリーズドライスープ」の商品ネーミングの考案に取り組み、参加した子どもたちは楽しそうに商品のネーミングを考えていました。

今回考案された商品は、オリジナルパッケージ商品として、10月21日(日)に東京都で行われるイベントで販売される予定です。



▲商品をイメージしてネーミングを考える

グローバル感覚を身につけるために

市内中学生をベトナムに派遣

8月6日(月)、中学生海外派遣事業「あすへの翼プロジェクト」で派遣される市内中学生6人と引率指導主事1人の激励会が長門市役所で行われました。

今回の派遣期間は8月19日(日)から27日(月)の7泊9日間、ベトナム社会主義共和国

のホーチミン市とビンズン新都市に派遣され、英語研修のほか、現地の中学生との交流や企業の工場見学、平和学習が行われます。派遣される仙崎中学校3年の伊藤海里さんは「多くのことを学び、経験し、実りある9日間になりたい」と意気込みを語りました。



▲異文化交流によるコミュニケーション能力の向上が期待される

8月18日(土)、マツダブルーズーマーズによるラグビー教室が俵山多目的交流広場で開催されました。

方法は学びました。高校生はパスワークやタックルの基本的なプレーの動きを確認。体の動かし方などの指導を受けました。最後はブルーズーマーズの選手によるロングパスやキックなどのプレーが披露され、参加者らは迫力あるプレーに魅入っていました。



▲プロ選手からの指導を受け、熱心に取り組む



▲災害と向き合い、どう対処すべきか意見交換



▲グループで出し合った意見をまとめ、発表

南三陸町の被災経験を共有し、防災について考える

中学生が防災研修交流

8月7日(火)、宮城県本吉郡南三陸町の中学生と市内中学生による防災研修交流が俵山公民館で開催されました。

この防災研修交流は平成24年度に市内の中学生が南三陸町に派遣されて以来実施されており、この日は南三陸町立歌津中学校・志津川中学校から10人、市内中学校から10人、防災・教育関係者ら15人が出席して防災課題について熟議

が行われました。

参加者らはグループに分かれて防災に関する意見交換を行い、最後に「自分たちでできそうなこと」や「地域で取り組みたいこと」を発表しました。

研修に参加した南三陸町の生徒らは「長門市との交流で新たな視点での意見が生まれるので、良いことだと思う」と感想を話していました。

果汁が多く、さわやかな香りとまろやかな酸味が特長

「長門ゆずきち」の販売開始

山口県のオリジナル柑橘である「長門ゆずきち」が収穫期を迎え、8月18日(土)、県内最大の産地である長門市で販売が始まりました。

「長門ゆずきち」は果汁が多く、さわやかな香りとまろやかな酸味が特長で、いろいろな食材との相性が良く、料

理の味を引き立てます。

この日は市内のスーパーで「長門ゆずきち」の生果汁でつくったジュースの試飲や果実の販売会が開催され、旬の味覚を味わおうと多くの買い物客が手にとっていました。

「長門ゆずきち」は10月中旬頃まで販売されます。



▲刺身にかけたり、唐揚げにかけたり、用途万能な長門ゆずきち

第18回村田清風競書大会

書を通じて清風の功績を学ぶ

7月28日(土)、村田清風記念館で第18回村田清風競書大会が開催され、市内の小中学生約60人が参加しました。

この大会は長州藩「天保の改革」の中心人物として手腕をふるい、維新回天の礎を築いた村田清風に関する語句や詩を書き表すことで、清風の

功績や人柄について理解を深め、郷土の歴史や文化に関心を高めることを目的としています。大会では「防長の四白」や「明治維新」、「八万貫目の大敵」など、清風に関する23の語句や詩の中から題材を1つ選び、参加者は半紙や画仙紙に筆を走らせました。



▲村田清風記念館の厳かな雰囲気の中、筆を走らせる

観光列車「〇〇のはなし」運行一周年記念イベント

カンカン部隊がおもてなし

平成29年8月にデビューし、新下関駅と東萩駅間で運行されている観光列車「〇〇のはなし」が運行一周年を迎え、8月4日(土)と5日(日)に記念イベントが沿線の駅で開催されました。

5日(日)にはJR仙崎駅で記念イベントが開かれ、「〇〇のはなし」のテーマソングを歌うシンガーソングライター原田侑子さんのスペシャルライ

ブが行われたほか、戦後から昭和50年代にかけて北浦で水揚げされた新鮮な魚を山陰本線で運んでいた行商人「カンカン部隊」に扮したながと観光アテンダントらにより、仙崎産のサザエのつば焼きやイカ焼きが乗客に振る舞われまし

た。また、4日(土)にはJR長門市駅で東深川保育園の園児らによる歓迎も行われました。



▲JR仙崎駅に到着した車両を出迎える一同



▲カンカン部隊に扮した観光アテンダントらによる振る舞い

長門のPeople



地域と移住希望者の架け橋に

磯野 沙智恵 さん (長門市移住コーディネーター／油谷向津具上)

長門市への移住希望者に対し、情報提供や各種支援を行う移住コーディネーターとして8月に着任した磯野沙智恵さん。7月まで活動した地域おこし協力隊としての経験をもとに、地域と移住希望者の架け橋として向津具地区で活動されています。

「向津具地区は人口減少や高齢化が著しく、その課題解決のためにこれまで築いた地域の人のつながりや知り得た地域の情報を活かし、移住コーディネーターとして活動したい」と磯野

さん。移住者を増やすことが地域活性化の鍵と感じています。

「移住を検討するために長門市に来て、短期間の滞在では地域の暮らしぶりはわからない。長期的に滞在できる仕組みがあれば」と課題を感じており、現在、地域団体とともにお試し暮らし施設の整備を進めています。

「地域とのつながりをつくりながら、地道に地域の良さを発信していき、少しずつでも長門市に移住してくれる人を増やせば」と抱負を語ってくれました。



▲長期間滞在できるお試し暮らし施設の整備を進めている

旬な人



▲終戦後の様子をマンガで描く



▲引揚者が辿った道のりをパネルで確認できる

著名な漫画家たちが描いた終戦後の引揚げの記憶

引揚げマンガ作品展in仙崎

8月10日(金)から21日(火)まで、青海島観光汽船のりばで特別展示「引揚げマンガ作品展in仙崎」が平和祈念展示資料館の主催で開催されました。

終戦後間もなく引揚げ港に指定され、軍人と民間人あわせて約41万人の受入れを行った仙崎港。家族で仙崎港に引き揚げた漫画家・森田拳次さんの作品のほか、子ども時代を

満州で過ごし引き揚げた赤塚不二夫さんやちばてつやさんといった著名な漫画家たちが自身の経験や記憶を辿りながら描いた漫画作品30点が展示されました。

各作品には家や土地を失い、栄養失調や感染症などでの身の危険が迫る中、日本を目指した人々の苦労が描かれており、来場者は当時の様子に思いを馳せていました。